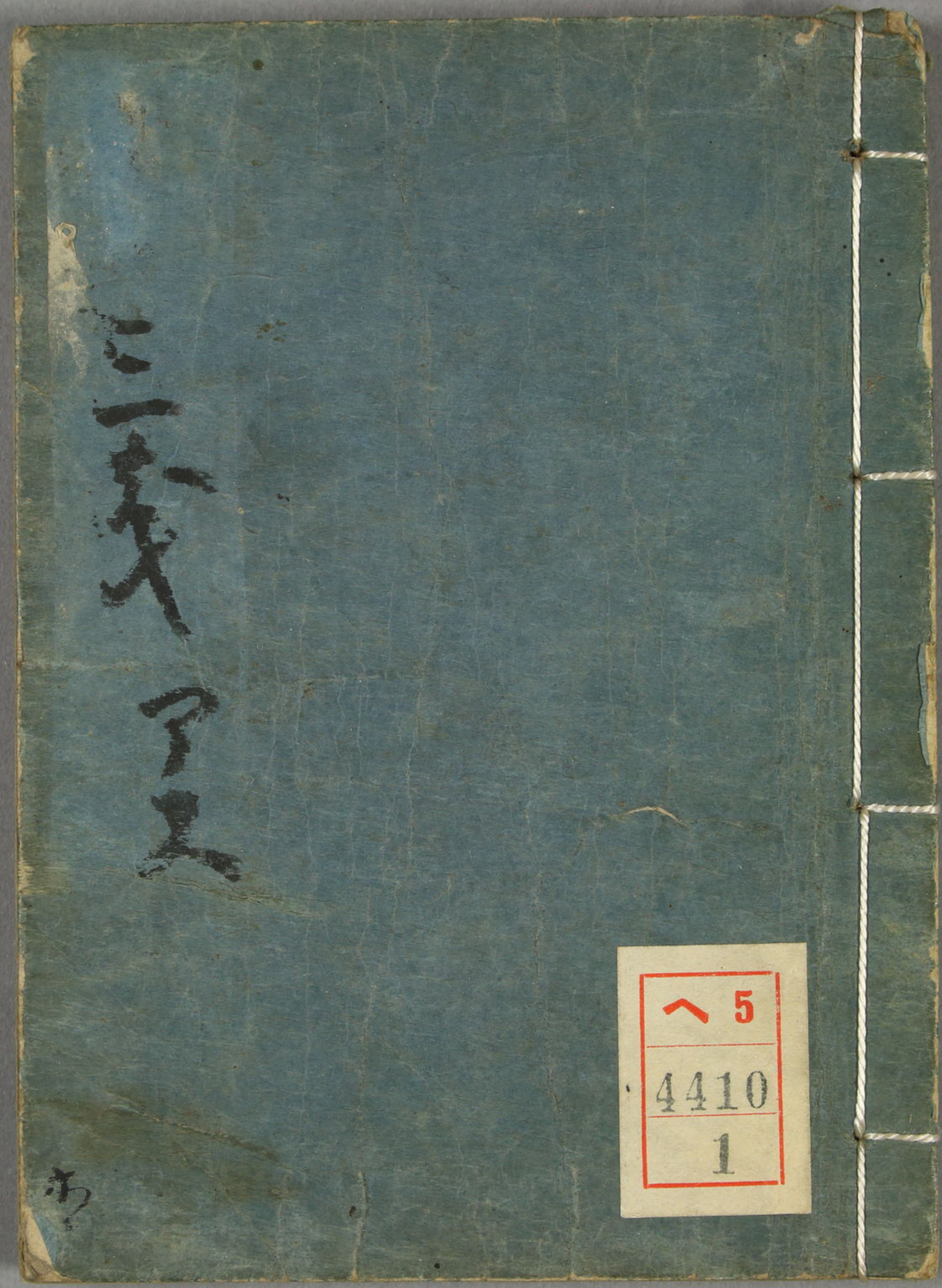
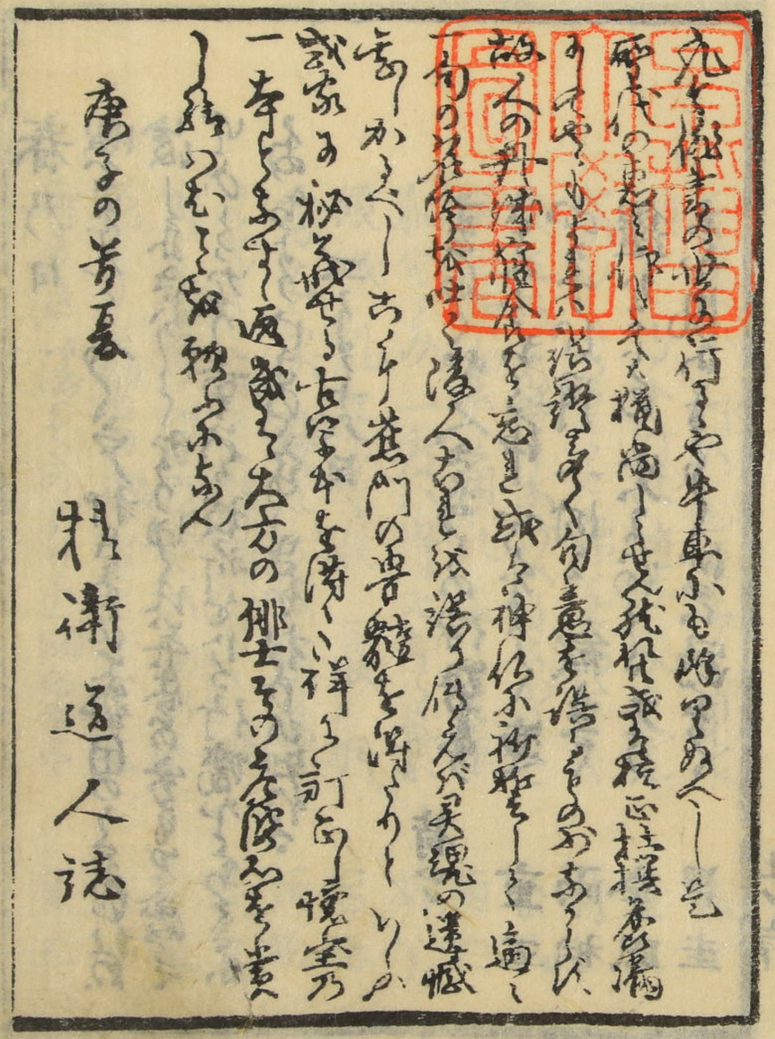

へ 5
4410
1

へ5
4410
1-2

門 へ5
號 4410
卷 1

昭和九年
九月二五日
購求



特衛道人誌

賀ノ日

春乃日

鶯見んと人〻戸打あけて秋田のうゑかゆ[illegible]

波しゝみさらしゝなりゆく比[illegible]の方も天[illegible]て

いとのうなり童[illegible]技術をけゝ行燈かゝちきゝ

あちようけきの家〻きをおるひ知[illegible]る

二月十八日

すゝめくやくきあゝの伊勢参　荷兮

さんゝちゝ中ゝ[illegible]ゝ連　重五

山の子いの月　一[illegible]　穀立き　両桐

鑓なゝの　火[illegible]の[illegible]る　李風

春風ふゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　昌圭

ゝ[illegible]ふ　沖の　山石[illegible]ゝ見て　孔衆

須テ[illegible]ち[illegible]行　時ゝ　猶久ん　重五

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　荷兮

文王乃[illegible]　[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ　李風

雨の栗[illegible]　角れ　[illegible]　雨桐

孔雀[illegible]　一[illegible]八骨[illegible]ゝ葉　荷兮

傾城　乳　[illegible]　晨　明　昌圭

雪[illegible]ふ　続ふ　人の影　[illegible]　雨桐

[illegible]ゝ[illegible]ゝ　神[illegible]ゝ　里　重五

[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]乃[illegible]　昌圭

[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　男の[illegible]　李風

[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　重五

八月十五夜　嵯峨にて

荷兮　李風　雨桐　荷兮　昌圭　雨桐　重五　昌圭　李風　重五　荷兮　李風

新麓　おもしろく　名所　わらひ　ゆく

侍るとて　あるべき　行　なくて　おまへん

初紅葉　ひとつを　二人　こそ

世々　ぬれ　馬　涙　菅畑

紀人　ふる　ふる　雨　菅畑

ゆく　ゆく　ゆく

ゆく　ゆく　ゆく

雨桐　荷兮　昌圭　雨桐　重五　昌圭　李風

三月六日野亭にて　丑叢

奈良法師　物うつ山の八幸まで　野水

おもしろ　うつむく　の　荷兮

夜汁　椀　等　供　侍　人　侍

越人　羽笠　秋水　旦藁　荷兮　羽笠　野水

羽笠　秋水　旦藁　越人　荷兮　羽笠　野水

[illegible]

且藁
越人
荷兮
羽笠
野水
且藁
越人
荷兮
羽笠

三月十六日 且藁の田家にとまりて

[illegible] 野水

[illegible]

且藁
越人
荷兮
冬文
孤屋
且藁
野水
荷兮
越人
野水
冬文

解てやすらん 校 むすぶ 変

今宵八更てやすらぬ

同十九日 荷兮室にて

蛼とけの菊すハおしき白露を　越人
秋乃 もなかゝりける 頃　且藁
秋丁の暮まころかに火をあね　冬文
別の月に なミさしかゝ つゝ物　荷兮
跡を花 四乃宮よりハ庵論せて　且藁
来ゆく ミちの 花をむかへし　野水
永き 日や 今の縁を昨日ふかさらん　荷兮
蔦への手 草にふかき人の雨の中　越人
紹鷗が䲙ハあらて 茶ハなく　野水
連歌の あとに 何くるひそかし　冬文
流 奪ひ 紅葉押寄せてあさまん　越人

宕 若かん 荒ま さけそれ　且藁
むさめやふに突當て あれく世の中に　冬文
蔓 二枚も ひろき つる庵　越人
おくの 露あくまさゝに蓑佛る　且藁
碁うち夜ハ送るきわくの月　野水
風のなかき秋の日舟に 网入をよ　荷兮
鳥羽乃湊の あかつる菊ひみ　冬文
あふ手の さこ藤流ともやまぬね　野水
滞らく 一歌 鄴算の名もなし　荷兮
春景の芥乃波に ひる鶉て　越人
隣を 呤つく いつも 黒ろ代　且藁
山ハ花 新の ころハ 於ち日ふ　冬文

[illegible] 雪雀鳴[illegible]　荷兮

追加

三月十九日舟泉亭　越人

[illegible]　舟泉

[illegible]　聽雪

[illegible]　蚊髭

行李の[illegible]　荷兮

[illegible]　[illegible]

月のあき　門[illegible]

春

雲雀より上なる体[illegible]　芭蕉

うつむいてゆく雲雀哉　句空

[illegible]　元之

[illegible]　秋之坊

[illegible]　南甫

[illegible]　其糟

[illegible]　梅露

[illegible]　小松谷ト

[illegible]　四斷

[illegible]　利重

[illegible]　重五

[illegible]　昌圭

[illegible]　兩柯

[illegible]　舟泉

[illegible]の言ふかのくらく梅白
[illegible]く宏小[illegible]
[illegible]の人貞牡丹 [illegible]
[illegible]元日里の朧[illegible]
[illegible]
けふとそも小雲[illegible]
[illegible]日二[illegible]樹の新く白ひられ
先明て[illegible]の赤ひくき雲[illegible]
[illegible]て[illegible]あけて酒[illegible]き新[illegible]れ
[illegible]人の[illegible]

羽笠
且藁
杜國
犀夕
呑霞
聽雪
荷兮
仝
且藁

見[illegible]
古池や蛙飛こむ水の音

越人
芭蕉

今[illegible]乃朧[illegible]胡蝶[illegible]
山や花 [illegible]の酒[illegible]
花ふ[illegible]れて[illegible]

重五
亀相
越人

春野吟

[illegible]を助る庵 二[illegible]
蘇寺[illegible]

杜國
李風

榎[illegible]

荷兮

餞別

[illegible]の花[illegible]
山畑[illegible]

越人
重五

[illegible]

仝

夏

やくしきとそのかぎりの尾ハぎ　九白

河鳥さしけく焼てぬる秋ハ　李風

ゆくと名る初ゑ屋の資ア　越人

うまつきハ蓮の一ツ哉　杜園

ゆく行ゑうゑ　亀飼

千代ゆくまて　角泉

武蔵坊をとめ姿

さぐりけや宮くゆく空の富川　内路

逢坂の関ハひき見ゆるやゝ河て

ゆくくくおくくまくらけり夏の月　憚誓

老聃曰知足之足常足

タゆゆゑ雑炊あり夏ハ　越人

柳雨　塵交　荷分　仝　月圭　重五

蓮花の濁泥をとゝのゝ

ゝき床ハ濁ゆ中ふ貧あり

蓮ハ流ゆ見ゆるき花の色

蓮花のゆくさ　越人

晩の立後ゆ常屋の逢きり事

夏門のまるゆ宮ゆゝ本ゆ屋ハ

譬喩品ノ三界安猶如宅　越人

とゝゝゝゝゝまき

六月の汗ねゝゝ屋ゝ常ゆゝ

秋

蕎ア の畑白子ハ英くくきのゝ　且藁

貧家のみ

[illegible] 越人
[illegible] 雨柯
[illegible] 芭蕉
[illegible] 越人
[illegible] 野水

八月十五夜

[illegible] 今

待宵

[illegible] 荷兮

閑居増恋

[illegible] 荷兮
[illegible] 舟泉

冬

[illegible] 杜國

芭蕉翁[illegible]

[illegible] 大垣住 如行
[illegible] 昌碧
[illegible] 芭蕉
[illegible] 越人

[illegible] 杜国

[illegible] 荷兮

冬の日

冬乃日
笠ハもゝ途の雨ふるところひ寒くこゝろ
ものさびしく俺は津〻〻しくうらひ人おもさんあるれふ
けゝ昔狂歌あり其国ふるさとしとゝふ国ふるもひ物作る

初霜のあさゝゝの笠ハ竹ゆゑ似さるふ　芭蕉
半ゝやゝそゝしゝうさのふゝ家苑　野水
有明のうゝあふ酒やゝくゝ世ゝ　荷兮
ゆゝらの露をゝゝふあゝひま　重五
初鮮乃ゝゝ乃ゝゝきゝあゝひ意　杜国
日乃ゝゝくふ鮮ふ笠を　正平
つゝハゝ岩ゝふ宿ゝ乃ゝ　野水

鬢ゝゝ乃ゝゝ乃ゝ乃ゝ乳ゝゝ　芭蕉
いゝゝゝの津〻〻と乳ゝゝ　重五
ゝゝゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ　荷兮
新法のあゝきゝくゝ蝿て　芭蕉
あゝハひんふゝ　蘆家　杜国
田中ゝゝ乃ゝ柳ゝゝ　荷兮
夢ゝふれ列　人ハちんゝ　野水
たゝゝ旅　横ゝゝひる月ゝ　村国
ゝゝゝゝ　所ゝ　堂五
二の尼ふ　野水
懸ハゝゝふゝ　芭蕉
のゝ物ゝ簑　重五

いせ長く恨みの矢をたるひ玉
はす人の紀念の雲の跡なまて
志ハ一宗徳の名を残し　荷分
笠はきそ妻理ゆもぬるゝ水河面　芭蕉
冬ごうれつまけてひとり庵苔　野水
ちらくくとさけしく人の骨くれ　杜国
島賊ハ名ひとめ母のうつり　重五
あいまいきの蟬ゆもとけし鄙　野水
秋ゆ一日ゆりつく夜数を　芭蕉
日東の生ゆ白ら坊ふ月を見て　重五
中ふ山稚をさまむ程程歩　荷分
うの脇しふとふ華の久く見ず　芭蕉

笠ゆ鄙乃　東ゆ風りそくき　杜国
りるゆのてハのてハけりるの里ゆ蕉へく　荷分
けゆハいりるゆ　りるゆのまりゆるきゆ　野水
後ひとゝ　居湯ふ　志賀ゆ海を　杜国
商ゆ年　歳れうけつるふなり　重五

おもゝも　牡年
ゆるゆ　ゆるゆまろるを　猿ゆを
まゆ雪乃　乃あとゝも待ゆて久ゝ　蕉水
霜りまゝ　ゆ見る　蕉の　食　杜国
笠量まゝ　ゆるゆる　猿の羽ゆれて　芭蕉
うつゝあけ　霜とゝる　ひきけり　荷分

庭訓の月卿の雅鼓をかたもらん　重五
桃花を　ふまれ　貞徳の爾　正平
面とゆる演奏の田楽ぶりうて　杜国
奥のきたりくをはるきなく　楚水
庶面けて　詠　男　荷兮
縁さるとかの　恨　のきくく　越人
いとゝ　痛　ぬちきる　ちくるき　重五
明　月　ふとき　ふひ　送　きん　芭蕉
小三　ふ　盃　ひ　ろ　ろ　秘
月　遅　ろ　と　紅　水　ゆ　人　杜国
縄　ゆ　乃　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　重五
ま　く　と　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　荷兮

初日花の出るかり藤乃のあしく　杜国
ふるひ　いくつの　まさく　久　いき　荷兮
根　ま　ま　す　藤　ま　ひ　る　藤　ま　ひ　る　藤　乃　の　あ　し　く　芭蕉
うくひ　ま　乾　く　藤　ま　り　て　荷兮
藤　ふ　り　く　根　い　根　れ　藤　き　ひ　く　重五
三　候　う　ん　不　夜　の　せ　き　人　芭蕉
乃　ま　ら　ら　ら　天　濃　て　ま　る　茶　を　寄
神　さ　ま　ノ　く　の　の　さ　そ　く　七十　杜国
寄　加　め　ば　ば　葉　ま　人　金　う　ち　ま　ん　重五
ひ　く　ま　の　今　れ　不　挙　り　さ　荷兮
葉　花　く　ー　磐　の　よ　桜　人　ま　す　れ　杜国
ま　ま　ま　ま　く　く　隠　稲　を　ま　き　野水

月ゝうてる高麗の髪の赤枝　荷兮

高き山　きぬぎぬ隠岸　ぬれる　野水

杖の浮乃　虚に成のゝ　辛夷

蕨は実　つゝふ　赤ゝ　ちり　重五

枝ゝ　湿を　ひぐき　ふる　芭蕉

ひゝり八畳の　屋ゝ　内　仏ら　杜国

二三ケ所の花　鶏　鶏尾　ゝ　重五

ちゝゝ　いさい　越の　柳　荷兮

はえをひゝ　ゝ　ゝ　十　杜国

つゝみ　ゝ　ゝ　ゝ　重五

水　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

蓮の葉の葉を初秋人の夫ゝ　野水

北の　門を　ゝ　芭蕉

ゝ　蕪　ゝ　荷兮

茶の湯　ゝ　ゝ　正平

ゝ　ゝ　ゝ　重五

ゝ　ゝ　ゝ　杜国

ゝ　ゝ　ゝ　芭蕉

ゝ　ゝ　ゝ　野水

ゝ　ゝ　ゝ　杜国

ゝ　ゝ　ゝ　荷兮

ゝ　ゝ　ゝ　野水

ゝ　ゝ　ゝ　重五

まかきまて津浪の水にくつれ行　荷兮
仏喰たる魚解きけり　芭蕉
縣ふる花見次郎と仰かれて　重五
五形菫の畠六反　杜国
うれしけに囀る雲雀ちりちりと　芭蕉
真昼の馬のねふたかほ也　野水
おかさきや矢矧の橋のなかきかな　杜国
庄屋のまつをよみて送りぬ　荷兮
捨し子は柴苅長にのひつらん　野水
晦日をさむく刀売る年　重五
雪の狂呉の国の笠めつらしや　荷兮
襟に高雄か片袖をとく　羽笠

あさ人と樽を枕よ呑をさん　重五
萩すのひとえに名を書る禅　杜国
三日月の東ハ暗く鐘の声　芭蕉
湖水くもりに琴かへす者　野水
烹る事ゆるしてはせを放ちける　杜国
声よき念仏藪をへたつる　荷兮
かけうすき行燈けしに起侘て　野水
おもひかねつゝ萩の帯しむ　重五
あさま花よかれ花のわけに入　荷兮
その望の日を我もおなしく　羽笠

田波河よあ火焼や五八十けるされと

炭賣のとよりつくるまをつ[illegible]
ひとの雅を花を 燒 麝香(トキ)
花藤一ゑる貴の雲ゑ咲ゑ乃
鶴百ゑる牛ゑ乃月ゑ[illegible]迄
風吹ゑ秋の日[illegible]酒ゑ
義経ゑ[illegible]ゑを市ゑ張ゑる
賀茂川や胡麻ゑ代ゑ[illegible]ゑ
いくゑくらの聲ゑ[illegible]ゑ
れゑ布ゑ[illegible]ゑ
ゑ三ゑ ゑ紙 (マル) 三平 載れ
捨ゑ[illegible]ゑ
火ゑ[illegible]ゑ火燒なき人を見ん

重五
荷分
杜国
野水
芭蕉
羽笠

門守りの公家の[illegible]
血刀ゑ[illegible]月の[illegible]
夢ゑ[illegible]乃[illegible]
ふゆゑの[illegible]
ゑ[illegible]
[illegible]
白蛾[illegible]
宣貞ゑ[illegible]
八十年紙三川ゑる童安ゑ
ゑ[illegible]ゑ
四南ゑ樣乃ゑ[illegible]ゑ
關の[illegible]

重五
荷分
杜国
野水
芭蕉
羽笠
荷分
重五
野水
杜国
羽笠
芭蕉

職の家より嫁する女見てうる
物紙の葉を法師 月代くれ
ちやり見て 桜みるさる 正月の
つゝみ 多回る 矢数 の宮
寅の月代 月を源治の高起て
雨ふるまゝ 南 京乃 雨
いづきして 海 ちゝぬ人の風
沼 ーまゝ のきくゝき 芹の根
鶴きゝ ゆのゝ 花ようとまゝ
物衣の ゝ ゝ 鶴水 表 凡
北の ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
寒ゝ ゝ ゝ 夢を ゝ ゝ

重五
荷分
杜国
野水
芭蕉
羽笠
荷分
重五
野水
羽笠
杜国

田家眺望

雲門の鶴ゝ 鶴ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
提 桜山家の体を 水の墨 隙
ひきゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

荷分
芭蕉
重五
杜国
羽笠
野水
芭蕉
荷分
杜国
重五

青もゝき 異 夏三月のゝ ゝ ゝ
敢ゝ ゝ 章 芹 蒙 切ゝ ゝ ゝ
利乃ゝ 蔵の 連 ゝ ゝ ゝ
俳 ゝ ゝ ゝ 富士 見ゆる 寺
庫ゝ ゝ 桂乃 花の 蔵る 寺
茶ゝ 糸 ゝ ゝ 凡 香

新近て烏帽子の女又三十
字[illegible]　[illegible]の長歌
なつかしき山橋さくらもみん
麻うゑ　いの　奇の葉あむ
江を近く　猶乗馬と世を捨て
永月や　月はおもかなる
結ぶも　帝の落花を手枕
絶壑　ゆる　水の山ぶみ
[illegible]　[illegible]
九合は蓑を[illegible]
泡のよう尾を引鯨を捨て
汴乗て　[illegible]

野水
羽笠
荷兮
芭蕉
童五
荷兮
羽笠
野水
芭蕉
荷兮
杜国
童五

[illegible]る年氏小角豆の長歌
芳や　[illegible]　炭竈つく　白
茨子　[illegible]の小坊交りの[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]川[illegible]
[illegible]
釣[illegible]
豆腐つくって　母の喪にへ
元政の[illegible]　[illegible]
伏見　本願の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

野水
羽笠
荷兮
芭蕉
童五
杜国
羽笠
野水
芭蕉
荷兮
杜国
童五

あ千代秀句集　野水
山茶花句集　羽笠

追加

いろは見てを羽織るうぐいすの春　羽笠
指尺はあふぐ　うぐいすの春　荷兮
ちくさ荷下ばの髪をちらせて　重五
接笠に宮をやりて　初春　杜国
銀ゝ　磬　月見海　芭蕉
ひろうは　指を　まろに波辰　野水

[illegible]

雲のあけぬの間のあかつきなれば月も
ちぐさの秋を紅葉人ことに人まちがほの風鈴の
響もいとゝ涼しきまでに
乾坤の秋ふるまつ秋ぞ
いとゝ世ちふ世をとめ人

元禄三六月　　越智　　越人

花見

木のもとに汁も鱠も捨られ　翁
西行のこゝろかよふき　天気すう　珠碩
旅人の風うき汐　よろくまて　曲水
ふくさもおるかね　太刀の　鞘　翁
月待く仮寝内裏の二月石　碩
鞍置る　三山来　動く我の　松ろ　水
名ハさめく不　降くらる　翁
入込く　海　坊の　湯の　六ま　雨　碩
中ゆも　せれ乃　ゆき　心　伏　水
翁

いつのまにか 峰一方へ高くなりて
なるさき 以前よりは 高くなり
ものおもふ身のなぐさとせらるれど
月見る顔の 物思ひのなき 翁
新風の 船をこぎ出づる 波のまま 碩
屋ゆくくるや 白雲 美雲 水
お部屋 花の盛りの一月田 翁
巡礼紀行 ひけるよ 碩
始めより 嶺の 嶺 水
文書かるる 力さえ なきを 翁
掛軸 月をながめて 碩
然型みえて 泣のひけ 水
翁

多賀の 紙の関守 碩
酒 ちりかかる あるる 水
双六の 月夜のそくそくまで 翁
仮の 持仏 むかし 金傳 碩
中くに ふる 屋れ 傘もて 水
素多 里の なるあれ 翁
時雨れて いるぬ 蟬の 行を 碩
月 ふ あけ ふる 月 水
花 ふ あるまね 笑ふ 翁
牛四方 なる 草 唐の 碩
一貫の 銭 むかし 遠ふ 水
医者の ふる 仮ぬ 別 翁

花咲けハ芳野山ふもとの里
忙ケ　さくらかく　さくのこの中一　水碩

○

いろ〳〵の花も咲うりやまと草　珠碩
うゑまそ懐乃　美人さわぬる　翁
懐の　そこ国こつゝさきわて　路通
ゆゝ公花をゝ　ゆゝ世ハ　峠越　仝
公宗と森の実をゝ　実をゝ　碩
鶯ゝ　なゝ　ひて　月ハ　仝
秋のゝ宮　ものゝ　せのひけり　通
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　仝

上ノ比

移ゝ　番ハ　羽織を　着ハ引　裏て　碩
小　云ゝ　ゝ　ゝ　帝ハ　ゝつれ　さ　仝
鶏　ハ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　通
会　伊　中　て　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　仝
こ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　碩
庄　里　の　里　乃　大　ハ　ゝ　ゝ　仝
旅　姿　行　き　人　の　姫　つ　ゝ　通
花　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　月　ハ　仝
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　碩
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　仝
沖　村　の　廣　さ　ゝ　医　者　の　ゝ　荷
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　越人

[illegible] 分
[illegible] 人
[illegible] 分
[illegible] 人
[illegible] 分
[illegible] 人
[illegible] 分
[illegible] 人
[illegible] 分
[illegible] 人
[illegible] 分
[illegible] 人

城下

[illegible] 人
[illegible] 仝
[illegible] 分
[illegible] 仝

城下

鉄炮の[illegible]に星うち[illegible]月れ　野侄
神の小麦の[illegible]　里東
西風の[illegible]小貝[illegible]　泥士
なるのねる一ツ　傾ひ[illegible]　乙州
蕎[illegible]二人[illegible]　怒誰
秋の[illegible]物[illegible]の　玲碩

女郎花秋の野原に分け入れば
月の中なる人ぞ見えける
今日もまた川原の柳をよう覚
新乃おもしろき　華野径
ちはや神を風をうふやうて　里東
一里　ふ　小舟　泥士
見知らぬ世を宮ほとほとの月を　乙州
そなた世を間　面や　ちくいと　怒誰
雪舟が水墨の樹の姿の寄きうか　泥士
き寄るはるく丁百　乃　浅　里東
月の花を庄屋をよりて　野径
賞深の　塔乃　ちき早蕨　乙州
　　珎碩
　　怒誰

まるまるとなりて　貯そも　節そ　ふ
寄る乳遠の　坊　泊　里東
のくれ行　屋敷の　荒の　一　珎碩
古きまちの　ちのけ　かまくふ　乙州
時くに八百姓　長閑　長屋　野径
酥所を見　見ぬ　偕衛　乃　恰　怒誰
あそうなる　船　島　の　泊やん　泥士
連る　力　も　皆　庄　珎碩
ちの風の大　寺　縄　里東
岩の　ちの　用　竹　野径
物別　ぬ　ちの　庄　乙州
夕辺の月　夕　合　奥　泥士
　　怒誰

宿坊の嫩りまうく焼飯を　里東

四十八老乃ろうましき噂　琰碩

髪くろ毋は枕の碇に寝直して　乙州

醉を御月に あけて咲ける　野裡

杉村の花八盛葉ゝ雨はつき　怒誰

田の浩濁り蛍乃よりさし　泥士

○

雑

亀乃甲煮る物く猶ハ俸も苦虎　乙州

蜂の集つ菊に 風かふく 青　琰碩

百姓乃 木綿 売りし人へとてのちの　里東

不審 思ろ ゆる あさうきの猫　探志

独く楽く炎のつうひろき旋の月　昌房

瞞瞞滑て きゆる 粉 炎　正秀

錯萩の御影にちろき坊を荒　及肩

風呂の如藏の出川をまうけり　野径

常の家 きき 声 ゆそ 修 出し　二嘯

煙乃 やうする うすくこの塵　乙州

秋にかり 雛乃 実 存 森を又　琰碩

出の そちつに 家を あり けれ　里東

此は蔵の 香に 咲そうる中 茶の飯　探志

いなくとは 起て きけへ白浜　昌房

論入の巾 出る さけて 月に 粉　正秀

生きよつ家も 見えるや きぬ　及肩

芙蓉を盛るうら河の町屋の今宵来
雪を岩のゆ竜乃ちく[illegible]き
うゝと昇る月をとんでみることをかな
詩いひのふく[illegible]ふ[illegible]乃　出うねる
深くうきたる水鶏の　ねたみを
耀なのまさるをて　宵きわけかの
眠うるふ[illegible]乃　ひをめし付
傳うるを　[illegible]　赤まうは
いまうゝ[illegible]　[illegible]　箱
あ及うゆ　雉　桐乃　社
さゝくと　切籠の　[illegible]風
春加の　庵　[illegible]　月

野徑　二嘯　乙州
珠碩　里東　探志
昌房　正秀　及有
野徑　二嘯　乙州

味のつくゝに焼しけを
[illegible]　居　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

珠碩　里東　探志
昌房　正秀　及有
野徑　二嘯

○

田野

[illegible]　苗代　時乃角太師　正秀
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　珠碩

[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]門　口の文字　秀
[illegible]　[illegible]　公
[illegible]　[illegible]　碩
[illegible]　[illegible]　秀
[illegible]　[illegible]　碩
[illegible]　[illegible]　秀
[illegible]　[illegible]　碩
[illegible]　[illegible]　秀
[illegible]　[illegible]　碩
[illegible]　[illegible]　秀
[illegible]　[illegible]　碩

いとぬこそ大根搗もまゐられて　秀
猶あるまゝに繞雑水皆けるを　碩
江戸酒を[illegible]　秀
あいの心弾　[illegible]乃　入道　公
雲雀峠　里人屋養[illegible]　碩
火を吹[illegible]　弾門の狐父　秀
本業　[illegible]　碩
[illegible]の　狐[illegible]　秀
[illegible]を痛　人の[illegible]を[illegible]　碩
[illegible]雪[illegible]　秀
最頃の[illegible]を[illegible]　碩
[illegible]　[illegible]の　河宜　秀

[illegible]　碩秀

[illegible]　碩秀

[illegible]　碩秀

[illegible]　碩秀

[illegible]　碩秀

[illegible]　碩秀

[illegible]　碩秀

北野の[illegible]　碩秀

柿賣三吟

八[illegible]や　[illegible]の[illegible]　[illegible]　乙州

[illegible]　北枝

[illegible]　牧童

[illegible]　州

[illegible]　枝

[illegible]　童

[illegible]　州

[illegible]　枝

[illegible]　童

[illegible]　州

[illegible]　枝

[illegible]　童

[illegible]　州

枝
童
州
枝
童
州
枝
童
州
枝
童

猿蓑

晋其角序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬

初しぐれ猿も小蓑をほしがるか　芭蕉

[illegible]　其角

[illegible]　千那

[illegible]　僧文鳥

[illegible]　[illegible]正秀

[illegible]　史邦

[illegible]　尚白

[illegible]　曽良

[illegible]　凡兆

[illegible]

新田より稗殻焼くしるい　羽江

いそりや伊代河内の真帆片帆　昌房

[illegible]　汗や地平の[illegible]　本来

[illegible]　百歳

[illegible]　野水

[illegible]　其角

[illegible]　公

禅寺の[illegible]の[illegible]や神[illegible]月　凡兆

面白きの[illegible]月[illegible]　嵐蓼

あらしやあ[illegible]　芭蕉

[illegible]　凡兆

[illegible]　其角

[illegible]　丈芳

[illegible]　稲道

[illegible]　越人

[illegible]　猿蓑

[illegible]　凡兆

[illegible]　其角

[illegible]　車来

[illegible]　尚白

神迄もひらちらにちる落鈴　珍碩

霜月朔日

膳まはり外に物なし赤柏　良品

み冬月の名を祝ふや水仙花　水口 怒七

今入世をとめけしきや手打蜂　膳所 且藁

尾頭のこゝろもとなき海鼠かな　去来

一羽くさゞき波や鴻手鷺　伊賀 槐九

こがらしや頬腫痛む人の顔　尚白

茶湯とてつめたき日にも稽古哉　いたみ 亀翁

炭竈に手負の猪の倒れけり　凡兆

住つかぬ旅のこゝろや置火燵　芭蕉

寝るやとて蒲団のさめぬ内　其角

門前の小家もあそぶ冬至哉　凡兆

鳥毛やかれ切たる夕間暮　膳所 松境

みつぐには眼をふさぎけり　伊賀 半残

貧交

まじはりは紙衣の切を譲りけり　丈艸

清風や巳を知らぬ衛　魯官

ちら殘やしら刈たる冬衛　去来

猪の跡踏消しや霜の中　史邦

有明の火をとりいれて　文艸

いそがしや霙にまじる雪の声　千那

夷田の野や浦の冬　凡兆

浪人士の見しる路や靄の中　木節

[illegible]

文州　路通
旦藁　杉風
真角
春年　春月
谷月
竹戸

題竹戸会

[illegible]　曾良
[illegible]　探丸

[illegible]

文州

[illegible]

史邦
[illegible]　禾楚
[illegible]　丸北
[illegible]　其角
史邦
羽紅
探丸
丸北

なかくと川一筋や雪のはら　仝

信濃路を過るに

雪ちるや穂屋の薄の刈残し　芭蕉

草庵の留主をとひて

衰老ハ簾もあげず菴の雪　其角

雪の日ハ竹の子笠ぞまさりける　尾張 羽笠

詩よそも謎かくハ雪の旅　尾張 野七

ひつかけて行や雪吹のてしまござ　去来

[illegible]追悼

乳のみ子に世を渡したる師走かな　尚白

から鮭も空也の痩も寒の内　芭蕉

鉢たゝき憐ハ顔に似ぬものか　乙州

一月ハ我に米かせはちたゝき　丈艸

住吉奉納

夜神楽や鼻息白し面の内　其角

節季候よ[illegible]　伊賀 順琢

家くやかたちいやしきすゝ払　江戸 祐甫

乙州が新宅にて

人に家をかはせて我ハ年忘　芭蕉

弱法師我門ゆるせ餅の札　其角

[illegible]　長和

[illegible]　去来

[illegible]　仝

大としや手のおかれたる人ごゝろ　羽紅

やう〻五月雨や　きのふ五年の雪
いねぶくと人かの五年の墓　其角
年の暮　雀ほどなる蚤の数〻　路通
　　杉風

夏

有明の面かとらや　わかく〻　其角
多〻ひとく〻果ての行末や　風国　太祇
明を撫て一ふしむけと添き手　西鶴
かしく〻きぬけひとくらきうて清るみ　尚白
時ち　かもうのき蚊の　門ン樹　九北
ひとくまてたさのこのそうに　時ち　智月
蜀魂なくや　なのうの兵角後　丈邦

入相は　ひとくきの手や　わかくきに　羽紅
ひとくきを　鶏ふうとくのこうふ　丈州
ちなきを代　高慢や　かくまきす　去来
おのれ那人我　悔て　やらけ　ほくきす　奥羽
　　春時一回の時　ちもちもうや　春の手ふと
　　ふうけ　ほ人
春雨や　蔵ふ　鼻成　ふんかく　民　曾良
うき　ふを　きい　ふ　せ　ふんも　芭蕉
　　旅鶴　庭　ほ　く　家　成　見
鳥　楓の葉　いろ　ふ　る　る　一　さう　曲水
　　四ふ　八日　清　意　冊　墓
花あ　ほ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　其角

[illegible]ぬ花を枯井戸の涼しかり　金峯

別僧

ちるときの名やきさらけしの花　越人

[illegible]のひかりくわらるるけしの花　玲碩

[illegible]

仮令ばきけしの一本や須磨の宿　村國

青くまたわもけしけしの法　嵐蘭

井のすみ[illegible]　杜若　半残

[illegible]

[illegible]のかくとうすうすうすさ　仙什

題十集し濁酒落柿舎二句

夏炉し畑も[illegible]　元兆

破垣やつまさく麻のまの通ひ路　曾良

南於蘆店

涼のまくなる氏乃国の桐　千那

洗濯やきぬよりくあひ柿の花　薄芝

豊國あく

竹付よのかを清よ[illegible]ふ　九兆

あけのまや富潤の窓　去来

おけのつのやはきはの倉のすきま　芭蕉

桔梗咲くさくさくさくさくさくさく　正秀

明石夜泊

潮壺やまろかなき寒さ及月　芭蕉

天の代や[illegible]　濁一四　越人

みな月三日つまある者のかたへまかりて
屋ね葺と並てふける菖蒲かな　其角
粽結ふかた手にはさむ額髪　芭蕉
環篠の廣葉ふかはし脚かな　岩翁
さひしさは客人居てもかすみかな　尚白
みな月六日大坂落城の事を思ひて
大坂や見ぬよの夏の五十年　伊賀　蝉吟
奥州高館にて
夏草や兵共の夢の跡　芭蕉
這出よかひやか下の蟾の声　仝
此境はひわたるほどゝいへるもこゝの事にや
かたつぶり角ふりわけよ須磨明石　仝

五月雨に家ふり捨てなめくじり　凡兆
ひね麦の味なき空や五月雨　木節
ころもの澗水めつらさまさりけり　史邦
奥州名取の郡に入て中将実方の塚は
いつくにやと尋ね侍れは道より一里半
はかり左の方笠嶋といふ所に有とをしゆ
ふりつゞきたる五月雨いとわりなく
うちすくるに
笠嶋やいつこ五月乃ぬかりみち　芭蕉
大和紀伊のさかひはてなし坂にて往来の
順礼をさそひてあふたりけれは料足
つゝみたる紙のはしに書付侍る

つゝこもるもたのもしや　雨　去來
髪剃や一夜ゝ金屋て月百　凡兆
月のうしろや　葵傾く　さつゞくひら　芭蕉
蓬　物やとゝろもせてよろゝ　雨　羽紅
七十人年乃老聖ゝ　ゝ　ゝ
吉野うゝてなりまの子ゝ　ゝ　ゝ
その老聖ゝ　ゝ　ゝ
人ゝ　ゝ　ゝ
吉野　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ
六月も力落ーや　月　あを　其角
百姓も麦ゝ　ゝ　ゝ　去來

ゝ　ゝ　ゝ　茶ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　正秀
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　游力
麦ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
麦ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　雨　智月
麦ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　花紅
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
風　流のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　芭蕉
出羽の宮ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
羽織を面影ゝ　ゝ　ゝ　紅彩の花　仝
法隆ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
市場のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　千邦
四の取け百ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　賀　万卓

膳所蓮水の撰めて

蛍火や ゆらゆらとれてゆくみやこ　去来

勢田蛍見二て

やゝの雨や ふるゝ流れ蛍　元圃

かゝる見や 船頭酔てかゝりつれ　芭蕉

三尾蛍人語けるとき

蛍火やまつ毛ちらつき八鬼尾岩　田上尼

ひかりちらす 松ぶとせゝる合ぬるる水　尚白

草むらや 百合八弁くゝれの良　半残

病後

ゆうゆうやくらあふつゝ百合の花　何処

すゝ風や 我より先に少し咲花　乙刀

焼捨て 薄を刈て

ゆくやかりうんとゝぎすの母も捨の蓑　嵐蘭

餞別

ゆくゝゝあやつ 捨ぶもちさは旅の名残　里東

うゝゝゝ ゆくゝゝ人ぶつ上そ

素堂まる 作者ゝゝ ゝゝ

其ゝゝ 其ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ　其角

陸奥や 奈良八 ゆ ゆ 耳 ゝ　丈艸

下ゝ ゝ 地 ゆ ゝ ゝ ゝ ゝ　嵐雪

寄ゝ ゝ 舞 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ　深志

新 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ　芭蕉

義さや 亡月 蕨刈る 寄ゝ ゝ ゝ　掘市

[illegible]　　凡兆

[illegible]　　千那

[illegible]　　史邦

[illegible]

[illegible]　　嵐蘭

[illegible]　　乙州

[illegible]　　凡兆

[illegible]　　公

[illegible]　　正秀

[illegible]　　木節

[illegible]　　野童

[illegible]　　羽紅

[illegible]　　巴山

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　嵐蘭

[illegible]　　宗次

[illegible]　　凡兆

[illegible]　　千那

[illegible]　　曾良

[illegible]　　去来

[illegible]　　大坂　之道

蓮花ちらくは花ぞ　不知讀人

蓮風や　蓮の葉ちるゆふ　杉風

ちらくうとぬけ　初る葉や　杉の風　路通

芭蕉葉を　行のはるれや　蓮の風　珍碩

人手向　ぬさ　猶そ　狙　杉の風

加賀の全昌寺に宿に

徳歌　杉風　蓮の　山　曾良

芦原や　蓮の　蓮の　蓮の　山川

あさ霧や　蓮の　蓮の　蓮の　凡兆

ちらくうや　猶乃　仏の　蓮の　去来

大比叡や　ちらく　山　野菜の　野童

上巻四十

二条ちらくうて　蓮ちらくは　杉風　凡兆

文月や　六日も　常盤　天仙　芭蕉

合歓の　木の　常盤　もいく　畳の　杉

七夕や　ひのまつの　ちらく　あるく　仝

ちらくうや　ひのまつ　猶　行　ちらく　相撲　秋若

初秋や　ちらく　蓮　ちらく　去来

蓮や　ぬるく　この　蓮　ちらく　風麥

笑ふも　泣も　泣も　泣も　蓮　及肩

ちらくけて　おとて　おとて　蓮　蓮　嵐蘭

寸　蛍　蛍　ひく　物　行　杉風

ちらくも　なく　蛍の　青や　蛍　千那

ちらくや　蛍の　初　史邦

且藁

[illegible]　子尹
選のみの親のこころやすく拾遺　羽紅
八歌おろふ拾遺集に業平の文去
ける序也
きぬ〳〵　拾の先の長ゆかか　凡兆
[illegible]
[illegible]　花落　去来
[illegible]　巴山　李由
元禄二年[illegible]
[illegible]
初の四十一

先達けるとして
[illegible]　曾良
[illegible]　芭蕉
百吉[illegible]　翠乃
初序[illegible]　凡兆
[illegible]　落梧
病序乃
海士の[illegible]　芭蕉
[illegible]　仝
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

むさんやみ甲斐の下乃きりぐす　芭蕉

茅屋哉　三景乃中氏　宋の聲　尚白

たそ問うやゆ孫たはそ伊敷人月哉　風麥

いせの月　千子

葉月や　矢福ふるさと人ゝ　之道

二ヶ月の月　鬢のかゝるくもりなし　半残

雲間なく月の変なるぬる月哉　去來

月見せん　伏見乃城の移郭

義を賞金不宿て

おりの月　おんなの月　士芳

加茂の月　おんなの涙のかゝるくもの上人の

つゆてよしくも

月影や　指子のくく　勝乃上　史邦

あさ達の　雲間よりこそ　ゆるくもの

新やうしくもさ　見送る　月哉　卓袋

才丑成　業や初之　月の新　乙舟

京祇園　業吉年の　月人　俳年る　丈艸

吹風乃　わ　ゆ　宵の月　ひとり　凡兆

ゆうゝ稼　ちゝ　ゆ　月の雨　尚白

雨乃能き　宿り　月　る　新　曽良

元録二年八月の業　月　て

元氏の頃　杜の結　上人の　古劇を

月清し　社行の　ゆ　る　砂の二　芭蕉

仲秋乃　手　猶の　遠　幸　て

うら表の月もつきけり秋の暮　去来
明月や処は寺の茶の木はら　昌房
月見する人の始にいそかはし　羽紅
後山のいかものゝ小原のきぬたかな　尚白
初潮や鳴門の浪の飛脚舟　凡兆
一戸や衣もやふるこまむかへ　去来
稗の穂の馬逃したる気色哉　越人
餅糟やからまる花の薄かな　止秀
たのもしやてんつる鄙の鶉哉　嵐蘭
一鳥不鳴山更幽　凡兆
物おもふ身にもの喰へとせつかるゝ
むかしきけ秩父殿さへ相撲とり　曽良

旅まくら麻のつき合府の下　千里
振あひや淡粋の乃蕎麦の花　珍碩
上行と下くる雲や秋の天　凡兆
鈴ひとつ聲も遠し鶉かな　半残
みる向のくもるのきの寒君　尚白
菊を切る跡まはらにもなかりけり　其角
こなたまた聯の陽同や雲ちぎれ　珍碩
おの兎あそふる小松の花　土芳
稲つく母に出迎ふうつら哉　凡兆
自題落柿舎
柿ぬしや梢はちかきあらし山　去来
きぬ渋やゆふ流く標兆の篆　紹小松 塵生

肌寒し竹切山のうぐひす　　元我

神田家

されハこそ梅の花のにほひ哉

神田家の戴くるる

梅ぞ人ぬるなるこそ

花さくき大宮瓦をまつり　　嵐雪

行秋乃四八日弱くきくきく　　文帥

立知る秋はれの風ふろ　　元兆

冊の中八窮屈の尾のひろし

桂奥の歯みえをうめや蝿の巻　　仝

春　　荷兮

梅咲く人の恋乃梅もなく　　露沾

上稿の業生ゆるふ候まして

梅ゆ香や山路横入る犬のまね　　賀古来

ぬ火ゆ香や入る甲八斗の角　　句空

庭奥

梅ゆ香や水利き流れ岩の奥　　玉芳

ゆ川懐や貧のき身ゆ梅の花　　半残

梅ゆ香や酒のゆ人のゆゆ　　蝉巣

ぬ乃ゆ乃ゆ一瓜剪を落せゆ　　其角

ゆゆ鉢の底ゆ梅ゆゆ

内ゆゆゆゆの一ゆ庵ゆ梅乃花　　芭蕉

疲衰や俤ゆゆの乃梅　　千那

灰捻ゆ白梅ゆ　　元兆

上巻四十四

月常りの蛮俗なるや 屠牛屠
晴香浮動月黄昏 猪水 文幽
入相乃梅ゆかしひくきうれ 風麥
武江不知の地なく藤亭の樹を
高くくしき窓の細目や 閑の梅 乙州
幸未のくしき浦もとつくしの
山よ 月くまを夜嵐窓の見ぬるの 芭蕉
けさ八四文嵐窓の見ぬるの 芭蕉
句ひを安中内者との名成日は 芭蕉
[illegible]
感動月ふかきこゝろ 湖水
[illegible]八その夜の美ふかくこゝろ

[illegible]けしきこゝろを人ひまさ風雅を
つゝまれさるや
美さろて又一句ひ穿れ 房 嵐蘭
百八のゝ移そ迷ひや 閑の初花 其角
ひゝゝ嘉き能宿ゝ人 初み日 去来
胆月や 原迄の月 藤乃菜 史邦
ゝろ市や 雪茶る若菜船 嵐蘭
貢は月 野 栗なるの 閑りく 如行
懐 爲ゝ 客市
裾折て菜をつゝ春人 草 枕 嵐雪
つゝさて 蹈月ゝ花若菜 路通
七種や 跡ゝ ゝ 其角

我[illegible]と雛乃雪ー　杉長[illegible]　文卅

[illegible]やまうふ[illegible]る[illegible]花　其角

[illegible]八麼乃[illegible]月[illegible]　仝

[illegible]たぬよとなれい[illegible]と　去来

雪の[illegible]踏[illegible]頃[illegible]　一相

[illegible]や[illegible]一[illegible]の[illegible]ふ　溪石

[illegible]や[illegible]　其角

[illegible]や下[illegible]乃蕉ふつ[illegible]小田の[illegible]　凡兆

[illegible]や[illegible]　魚口

[illegible]の雪[illegible]　探九

此[illegible]八[illegible]乃[illegible]　卜老

頃越[illegible]ふ[illegible]　遠水

[illegible]川　[illegible]　御[illegible]　尚白

貴郷乃[illegible]　[illegible]　一吱

[illegible]や　[illegible]　仝　木白

侍中の[illegible]月[illegible]　[illegible]　揚水

田家[illegible]

[illegible]　猫の[illegible]　芭蕉

[illegible]　おもい切り　猫の義　越人

[illegible]　去來

露[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　龜翁

[illegible]　事の[illegible]　尚白

[illegible]　[illegible]　龜翁

初ちるふるめかれ　嵐雪
貴賤の人ちまたなりしも木の葉　凡兆
白魚や海松かゝりの人ちまた　其角
人のゝ多ふるまそ海や桜貝　杉風
まさやたちたる出ようつゝ　元志
陽炎や元つきうゐる雪ちり上　荷兮
うけそめやあるさまのゝ　百歳
うけろめやをろゝ落る雀の砂　士芳
いとゆふのいとあるふく虚空　氷園
野ちるふ　あくもりなき　孤山
この けろめや紫朝の未の蓮の葉　凡兆
いとゆふゝ白ゝ門の蓮仏の花　芭蕉
　　配力

物春の塵ゝ　嵐雪
被覆えさもさも一枝二枝代　路通
ゝのゝや常のなりめそ浮梨俤　野水
蕎麦ふゝへ無のうゝ　凡兆
ちゝゝ今や紀の屋の屋　澤雉
ちゝ所や屋根の心草ふ花咲ね　嵐雪
　ちゝ山ゝ野ゝ
ゝ所や山ゝ出て雪乃門　猿雖
不時ちゝ　くさ起ちゝ　芭蕉
ちさやの内蓑のゝ　史邦
ちゝ所のゝ　羽紅
泥棒や苗代乃代　史邦

蜂とまる木舞の竹や虫の糞　昌房

振舞や下座になをる去年の雛　去来

ちる風にあふする雛の花の衣　尾張 荻子

桃柳くばりありくや女の子　羽紅

もとの花境木まかぬかな　三川 烏巣

里人の臍落したる田螺かな　嵐推

餘の茶で一服露けり萩の露　半残

紙鳶切て白根が嶽を行衛哉　加賀山中 桃妖

いのかうしとゆきさらしや　尾張 園風

同じくはやともなくの上の親雀　珍碩

苗代の緑に土まの子なんや梯の花　土芳

闇の夜や巣をまどはして鳴鵆　芭蕉

越より飛騨へ行とて籠のわたりのあやうきところどころ道もなき山路にさまよひて

鷲の巣の樟の枯枝に日は入ぬ　凡兆

ねすしより見ぬ子の亦のからびかな　丹 石口

あのや猶人渡り車窓の言ひけり　杉風

ひばりなく中の拍子や雉子の声　芭蕉

芭蕉庵のふるきを訪

菫草小鍋洗しあとやこれ　曲水

木曾路旅して見たく成にけり　勢 山店

畫讃

山吹や宇治の焙炉の匂ふ時　芭蕉

白玉の[illegible]ふきちらつく　桜の花　東来

[illegible]

[illegible]ける人も物ひろうと出まさまを久て

并も[illegible]の昔やちらう　桜　羽紅

瞬年あらふ世さうつくきうれ　坂上武

うつひさの笠おくる　桜　芭蕉

えろさ[illegible]ふまさ進ふさけ人を　利雪

東風山さ[illegible]

小坊[illegible]や[illegible]れて[illegible]　其角

一　枝ハ折[illegible]　尚白

[illegible]の[illegible]　凡兆

真先ハ木見て　枝ふくん　ちるさくら　文州

[illegible]　常[illegible]ふ[illegible]　[illegible]　史邦

[illegible]　千那

[illegible]　芭蕉

[illegible]

一　甲ハ[illegible]れ　花守の　[illegible]　仝

[illegible]

墓の上ハ[illegible]

毋の物くさくさつくりてその樒をくさる
俺けるふ徒の墓樒咲くさかれば
すまひしや花伝の山博乃 法師
初うく人手ひのハりくと 花見乃
ある俤の蹴ふしー 花乃 都乃
治く人の心有りて
菊とも まこと乃 歌 ひの玉とそ花 歌
賜きされ 宮舟 りゆく 武
えふすもふ乃ふくやうのふ海くいて
大業やようしの乃ふの 花の宗
乃藤山よりのる
乃藤や 花乃ハその代と貴乃

園風 去来 凡兆

半残 長眉

曾良

嵐蘭

源氏の絵を見て
桐壺に 花ちる 花の 立まさく

羽紅

庚午の家 家を焼て
焼 ふりさ れ花ちるまし
すふちるや 伊藤乃 樞落しの

九州 北枝 凡兆

海棠の すの人落ち 歌の月

普船

大和行脚の時
草ふく 宮ふ はや 嚴の花
山鳥や 鄙 ふの尾の
やまつ はふ乃ふやゆ り新
鳥角して 初花つ む 法ふ

芭蕉 探丸 智月 山川 式之

鶯の ふきとちよう 山路

[illegible]塚

[illegible]　乙州
[illegible]　曾良

[illegible]水情[illegible]

[illegible]の人[illegible]ける　芭蕉

[illegible]　去來

[illegible]　芭蕉
一[illegible]風[illegible]　凡兆
[illegible]の[illegible]　史邦
[illegible]　來

[illegible]　蕉
人[illegible]　來

[illegible]物の利

[illegible]　邦
[illegible]　兆
[illegible]　來
[illegible]　蕉
[illegible]　邦
[illegible]　兆
[illegible]　蕉
[illegible]　來
[illegible]　邦
[illegible]　來

[illegible] 二日の [illegible]
[illegible] 小の [illegible]
[illegible] 皆 [illegible]
痩骨の [illegible] 起る力なき
[illegible] 車引 [illegible]
[illegible] 根殻 [illegible]
[illegible] の力 [illegible]
[illegible] 稲 [illegible]
[illegible] 切る [illegible]
青天ホ [illegible] 月の [illegible]
[illegible] の [illegible] の 初穂

兆　邦　來　蕉　邦　兆　蕉　來　兆　邦　來　蕉

公家の [illegible] 蕎麦 [illegible]
[illegible] 風乃 [illegible]
[illegible] 又 [illegible] 枕
[illegible] の [illegible]
一様 [illegible] 靴 [illegible] 空乃 [illegible]
枕 [illegible] 古 [illegible]

兆　蕉　來　兆　邦

市中ハ [illegible] 物 [illegible] 夏の月　凡兆
[illegible] と門々の [illegible]　芭蕉
二番草 [illegible]　去來
所々 [illegible] 一枚　兆
[illegible] 限 [illegible]　蕉

たゞとひやうしに長き脇指　來
草村に蛙こはがる夕まぐれ　兆
蕗の芽とりに行燈ゆりけす　蕉
道心のおこりは花のつぼむ時　來
能登の七尾の冬は住うき　兆
魚の骨しはぶるまでの老を見て　蕉
待人入し小御門の鎰　來
立かゝり屏風を倒す女子共　兆
湯殿は竹の簀子侘しき　蕉
茴香の実を吹落す夕嵐　來
僧やゝさむく寺にかへるか　兆
さる引の猿と世を経る秋の月　蕉

年に一斗の地子はかる也　來
五六本生木つけたる潴（ミヅタマリ）　兆
足袋ふみよごす黒ぼこの道　蕉
追たてゝ早き御馬の刀持　來
でつちが荷ふ水こぼしたり　兆
戸障子もむしろがこひの売屋敷　蕉
てんじやうまもりいつか色づく　來
こそこそと草鞋を作る月夜ざし　兆
蚤をふるひに起し初秋　蕉
そのまゝにころび落たる升落　來
ゆがみて蓋のあはぬ半櫃　兆
草庵に暫く居ては打やぶり　蕉

いのち脾ゝき　鶯の　來

さめ〳〵よ品うりうる惡をして　兆

浮世乃罪ふかき　皆　小町なり　蕉

なみいをそ粥　きるも　涙　來

四角なれば　廣き　板屋　兆

まのひとふ風　這て　千るたのみ　蕉

千〳〵うあるね　蚤の　袖ひさ　來

灰汁　桶乃　末やうけりきりを　凡兆

あらうとて　霞　蕉　芭蕉

新年　しきなりしる　月ひかり　野水

なりへて　脾　十乃　さうき　去來

今代　經へ　きこの　を　横く　て　月　し　そ　蕉

巻　の　まる　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　北

京　和　て　脾　て　脾　ま　み　弱　水

摩　耶　う　て　根　り　雪　れ　う　れ　水

ゆ　ふ　め　ふ　う　ま　子　と　巻　ば　阿　蕉

蛭　の　ひ　ま　を　う　き　そ　と　蕉　北

の　お　ま　ひ　け　ひ　ば　忘　れ　て　住　ま　蕉

涼　せ　ら　き　て　る　の　秋　水

金　幾　と　人　ま　ま　る　み　の　や　来

あ　ら　風　呂　ま　き　の　宵　く　の　月　蕉

町　内　の　れ　ま　も　文　行　明　や　し　き　北

行　を　乃　る　ま　も　蕉　ま　る　な　る　京

水

いたゆちる月ハ　西行

蕉

[illegible]

北

[illegible]

水

[illegible]

東

[illegible]

北

[illegible]

蕉

[illegible]

来

[illegible]

水

[illegible]

蕉

[illegible]

北

[illegible]

水

[illegible]

来

[illegible]

蕉

[illegible]

来

[illegible]

水

[illegible]

蕉

[illegible]

北

[illegible]

来

[illegible]

水

[illegible]

三月　曙　の　[illegible]

餞乙州東武行

芭蕉

梅若菜まりこの宿のとろ汁

[illegible]

曙

乙州

珍碩

素男　孤　蕉　男　碩　蕉　孤　男　碩　孤　北

智月　正秀　来　残　芳　園風　猿維

[illegible]　　残風
[illegible]　　雖芳
[illegible]　　嵐蒙
[illegible]　　史邦
[illegible]　　野水
[illegible]　　羽紅

幻住庵記　　芭蕉翁

[illegible]

[illegible]

奥羽の海浜の景色を見るに、こゝ北海の荒波千きたりて、
そこ幸崎の岸の波、漂ふ浦々の流れとなる
風もまた世の一つなれば、
北の人情の優しきは、
八十山のやうに出でたる
名残も幸ひにつゝ、
志のゝ宿りの浦さびを求めつゝ
陸くくもいとゝ奥へ
南へとつゞく奥八郡湘洞庭の
ちらちら人家ときかゝる海
おろし山風海を渡りて
日暮の山路乃

七日の雲八郡、
物ゝ
平泉
天皇
士峯の
らき田
神櫻
倒代
横跳
棚作
常ゝ
公義除住

足をなけ出し空山に虱を捫て座す たま〳〵心
まめなる時ハ谷の清水を汲て自炊く とく〳〵の
雫を侘て一炉の備へいとかろし はた昔住けん
人のいと心高く住なし侍りて たくみ置る
物すきもなし 持佛一間を隔て夜の物おさむへき
所なといさゝかしつらへり さるを筑紫高良山の
僧正ハ加茂の甲斐何かしか厳子にて此たひ洛にのほり
いまそかりけるをある人をして額を乞ふ いとやす〳〵と
筆を染て幻住庵の三字を送らる 頓て草庵の
記念となしぬ すへて山居といひ旅寝といひさる器
たくはふへくもなし 木曽の檜笠越の菅蓑ハかり 枕の
上の柱に懸たり 昼ハ稀〳〵とふらふ人〳〵に心を動し

あるハ宮守の翁里のおのこ共入来りて猪の稲
くひあらし兎の豆畑にかよふなと我聞しらぬ
農談日既に山の端にかゝれハ夜座静に月を
待てハ影を伴ひ燈を取てハ罔両に是非を
こらす かくいへはとてひたふるに閑寂を好み山
野に跡をかくさむとにはあらす やゝ病身人に
倦て世をいとひし人に似たり 倩年月の移こし
拙き身の科をおもふに ある時ハ仕官懸命の地を
うらやみ 一たひハ佛籬祖室の扉に入らむとせし
もたとりなき風雲に身をせめ花鳥に情を
労して暫く生涯のはかりことゝさへなれハ終に
無能無才にして此一筋につなかる 楽天ハ五

俳の神をやうり孝柱い痩てう受長文俳人の
ひ〜〜〜

[illegible]

[illegible]

文と云ふ

雅号 朴水

市隠

[illegible]

半残

麦乃形を立て[illegible]

一袋 [illegible]れや [illegible]田の [illegible]

之造

書 音

一夏入る 山さくらや 旅ねすき

雅号 魯町

及肩

夕 [illegible]や 拷木の奥の一[illegible]

昇猿腰掛

秋風や 田上山乃 [illegible]

尚白

蹈義

[illegible]

木履の [illegible] 毛[illegible]の [illegible]

北枝

木節

[illegible]や 蕨乃 [illegible]

雅号 鶏

智月

羽紅

昌房

何方

越人

石山や行て [illegible] 秋の風

[illegible]の [illegible]や [illegible]

[illegible]や [illegible]

蓮の実の [illegible]入庵々

等哉

明年跡を追ふ四菴

春雨やあらぬ墨ぬりのひつと　嵐蘭

同夏

涼しさや竹藪をもる月の影　曽良

續猿蓑

八九月中ごろ順路する御ゝ社

春雨の降るまの富士の新墨　芭蕉

物ゝ思ふ人の手紙を反故にして　沾國

内ハきたなく晩のふるまひ　馬莧

きのふ今日和ゝる月の色　里圃

狗脊ゝまでも肌寒ゝ　沾

洗濯も出ぬ風の吹ぬ　蕉

孫ゝ踏ゝる　里

祖父の借衾　莧

祖父の智恵なりける　蕉

蝶を捕ふ人ハ蝶乃陰　沾

約束の小さき一さけ賣ふ茶屋
十里ばかりの余所へ出かけ
茶の業平の小驛 世そがりの爰
ひるまうの門の書屋
いつくへの後八幡法華堂
やつと関ぜん 京の乃門
あつ明よ おくるかのうそかひて
見てのみ 和の 人口
すまつ茶乃くまの藤孔 化爰
伊勢の下向ふ参詣うと 遊
も持ふ小紫の伸ふ
へんとうと 京兵ふれるまち雲

荒里芭沾蕉荒里芭沾蕉荒里芭沾蕉

禪寺より一日あまつ 紙乃上
規乃角れ 賣 竹
濱出 ふ牛に 懐を
なれ脱 ふ 内 規
月待 傳筆 流のうちそ
蘇乃菊の名素さ
ず れて 栗を 修むくの 聲
俳 ふ る 乃 表
制 ふ 切の 内
ふ 寺の
門立て ふ 蕉
茶つと 火入ふ 薫

里芭沾蕉荒里芭沾蕉荒里芭沾蕉

[illegible] 荒 里

[illegible] 馬荒

[illegible] 浩圃

[illegible] 里圃

[illegible] 荒

[illegible] 浩

[illegible] 里

[illegible] 荒

[illegible] 浩

[illegible] 里

[illegible] 荒

[illegible] 浩

[illegible] 里

[illegible] 荒

[illegible] 浩

[illegible] 里

[illegible] 荒

[illegible] 浩

年〻木屋うちの者と中よく
二時敷賀の長崎のうまいもの
汁の実よりはまつたけの土瓶むし
あつもの まるをまろ刈てこゝ
ゆく〻水寺の橋を渡り中
屋のおとこ八幡しき
祢ぎうまてまさ毛つゝね小高ひ
甲下して 家ゆよりは料理よ
孔入て 秋よりあつ〻 月
額よりあつ〻 毛毎の露
代金八 実の母の 跡問て
各自て行 出地乃 庄内

里　荒
沾　里
沾　里
荒　沾
里　荒
沾　里
荒　沾

本の新とさ時のすゝひ物　里
岡てこゝ乳味ゝ枝苗の　風　荒
花のかけ泉を立経の葉ゝ　沾
あゝ田の土乃　加ゝ〻ゝけゝ　里

いさ〻〻立摩ゝ市ゝ龍ゝ和　里園
名、のまさ花の市ゝ　沾園
大根のさ〻ゝぬ去ゝゝ〻れて　芭蕉
上ゝとも小移ゝ栗のむ　秋　馬荒
町切水月見の跡の集西漢　沾
花のゝちゝ〻と通ゝる次　里

[illegible]

蒐　沾　里　蒐　沾　里　蒐　沾　里　蒐　沾　里

[illegible]

蒐　沾　里　蒐　沾　里　蒐　沾　里　蒐　沾　里

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃て通る紀三井八幡の峯より
若の方ひろくひろくかすみ日
おちぬれば又西の方なる北の空
ほのぼのとあけぬれば大なるかたちなる
海原の内義八千戈五百余ら
喧嘩のさまもむさくせくまぬ
大世の人の二月の暮の春清
きらきらけし　中ばの道
末ふく秋の末御八幡御ぶ元
奥の世界八　近年ハ作
酒ゆゑも奇のやまを月ゑんして
赤熟を　庭の　西面

蕉考然蕉考然蕉考然蕉考然蕉考然

定まるまぬ濃の山　ゆう　雲の月
寝汗のさまる　七夕ゆくとの夏
多の絵を　ほうとぎす　雨の風
大工　ほうひの　鼠ふ　きこゆる
果橋も　けふハようて　ほうと
かくて身　て市の　中秋　押合ふ
四ちうう　海ちハ花のけもあて
鳴の　神の　まさわけ男　生

蕉考然蕉考然蕉考

春賦

野盤子　支考

今春八月十六日　牡ふ　ふ　月　東方の
乱ひ　かけて　衣　海　秋　ゆく　ひ　れて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行くものとゝまらぬ　安徳天皇　翠吉
[illegible]　椅子分ける　校筆　蕉
蕨たべる　[illegible]　紅月　[illegible]　蕉
お宮の[illegible]　跡先やうの　実朱の町　考
傑の月和　雪乃[illegible]　生　然
吞ころ　[illegible]成世酒の[illegible]　翠
笑うえの　分を[illegible]　吉
封付　文[illegible]　来[illegible]月の暮　蕉
[illegible]　[illegible]　[illegible]の上蜀元　考
[illegible]　[illegible]の角[illegible]　然
[illegible]　表　一周　翠
その[illegible]　[illegible]の上　吉

大きな徒の[illegible]とんぼ　園[illegible]　然
盛ある[illegible]　[illegible]　考
[illegible]　[illegible]　[illegible]　吉

春之部　花樹

温石は[illegible]　萩芽や初樹　露沾
[illegible]時[illegible]又[illegible]月の木樹　其角
[illegible]　[illegible]　[illegible]　芭蕉
[illegible]　[illegible]　[illegible]　洞木
角の[illegible]　人を[illegible]　[illegible]の花の友　文艸
花撒て竹[illegible]　[illegible]の[illegible]　洒堂

富士ある酒屋にあるとして立寄る
仙言も酔の中に是ハ品ハ出ぬるか
酒屋に琴の声せよ窓の花　惟然
賭ふして降出されけるさくら杯　支考
人の気もかく鶯しれの桜　沾徳
くるる日や舟中の花乃小西　猿雖
吉うう　花見ハ　おとる女中哉　湯和
見る所あの小西やさかされ　乙州
咲花をおろりけるる老木哉　木節
遠座や水ゆ乃ハ初桜　沾荷
二乃雫やされハ吹込朝の桜　子珊
公園中乃出方ハ印ハく桜哉　卓袋

田家

藤葛乃名物ハ桜　李里
咲ハ乃花や　叙米　みち石　桃首
山門ハ花乃ハ　一桐
なる是木の根やわ　如雪
花ハ主きませて似合ハ人ハ流　其角
ハ乃ハ　少年　一鷺
ぬり乃ハ　卓袋
一貝ハ花見乃ハ　沾圃
ハ主きまれハ主乃ハ　公
若菜
濡椽や　あわるく　土あ　嵐雪

兎の峠やむ　滝の若葉哉　曲雲
夕波の[illegible]　孤屋
一ふしの牡丹八重咲若葉哉　尾形

梅　附柳

春もやゝ気色とのゝ月と梅　芭蕉
散さくらや大悲閣もかすめ乃花　北水
守梅のおそい業なり北光寺　其角
里坊よ雉きくやむかしの花　昌房
投入れや梅のおくに落のたら　良品
病僧の庭よれ梅乃さうい　多良
あらふしき宮殿きき寄し梅花　万平
蔦ほそ梅の蔦まで少残の跡　魚日

あら〻梅や〻〻〻〻〻家〻の〻〻〻〻　千川
白梅や梅は自分を[illegible]　大丹

天神のやしろ行くや梅は散ん

月みつけと行くや梅は散ん　遊糸
散もの〻の樹のあるや　梅柳　千部
時〻〻〻〻〻〻〻〻川やあき　意礼
ちゝを教へちゝや　古柳　李由
まゝ柳の[illegible]れくゝれやる蔦　九苔
柳をうけてゝる家面る　柳爪　巴文

雪ふ[illegible]　附魚

雪ふ[illegible]ナゲシ兼塵の形　其角
うゝひ千や壁八塀越の風景あり　史邦

[illegible]

うくひすや 柳かうろ 藪の走
[illegible] 壺も[illegible]ひしのと 続のかろ[illegible]
春雨や 筆ふつ[illegible]ま[illegible] 雑[illegible]の変
[illegible] 国乃[illegible]やまの[illegible]
[illegible]や 田[illegible] [illegible]ろ[illegible]
巣の中や 身を細くして[illegible]
[illegible]や 婚ふ世[illegible]
蝿うちふ[illegible]
行燈や 夜風ふつれて 城構

芳野西行の跡

智月　芭蕉
去来　細堂
今下　長虹
少年　豊竜
峯嵐　槐市
河馬　沟幕

[illegible]

[illegible]
[illegible]
白魚乃 [illegible]
[illegible]川ふ[illegible]
高[illegible]魚を[illegible]

草

なく[illegible]
[illegible]や 松[illegible]
春丹野や [illegible]の[illegible]
川清や 沙[illegible]
霄の西 [illegible]

土芳　圃水
子珊　山蜂
其角

正秀　此筋
羽紅　猿雖
闇梧

[illegible]

車来　柳梅
荒雀　惟然
馬莫　園指
拙候　出八
乃龍　雪宏
正秀
夕可
一桐
圃落

椒九
支考

[illegible]

白日去つゝ
[illegible]八動く　[illegible]陳
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

已百

柳梅
惟然
園指
出八
雪宏

沢雄

木莫
此節

春鹿
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

千川の田をうえうの舞歌人　一鶯

桃　附椿

白桃や古くくも落もあるなり　桃隣

金屏ハ岱ハ成ぬ　桃乃花

伏見ゝとは椿のよ乃飛の花　雪芝

梅さくゝらゆをゝるゝ飛の花　水鷗

花さそふ桃や舞妓の役躍　其角

江東の春男乃園父の陵望ゝ住るゝ所のく

経文影乃ゝ乃ゝ乃ゝ沙羅の光明ゝ

小猿猴ゝ光をやゝ世ゝ玉つゝき　角上

猫ハ椿ゝ　春ゝ　猫ゝ　桂ゝ　殘香

光ゝのけゝ見るゝ椿乃ゝ乃ゝ穴　洞水

ちゝ桂ゝのまゝ　野哉

歎ゝ山ゝ　附郷国歌

山ゝ　堀に干ゝる　蓑　一重　閑指

田家の人乃舞　乃ゝ　舞　かゝ　西堂

山ゝ　ちゝ　乃ゝ　乃ゝ　雪芝

堀ゝ　つゝ　椿ゝ　蛾ゝ　荆口

萩ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

春　月　　　

書の雨や唐松あるる墓こころ　游刀

なつかしう三つ武江の旅宿を寄け角

春雨や花ろろめくこころ水　支考

さろ雨やさろうろ飛ぶ燕　桃

沈く雪や雨小遅々さるの尾　凡

紅つくや鞋乃屋る石井直　風職

汲平

乃ゆり帆の浦ゝ見ぬ波天　去来

不川不宮金の新まき汲千代　閑指

緑春

ゆらゆらやあられ沈る春の海　許六

春雪やまた越さる梅の蕾　風職

雲飛乃ゆ乃上れ雲ちや雲みゝ　玉芳

ゆりゆらやゆ巌ゝ腰の樹ちゝ　旭力

小雪花太ゝ白ゝ雲れ飛ぶ表　万平

雪毎年狩ゝ雨の井　答蘇

水の女ゝ雪ゝ雨ゝ雨ゝ　均水

雪乃月や春の水の中ゝ小雪ゝ　正秀

三尺の雉ゝ月ゝ日ゝ　仙化

引ゝ月ゝ中ゝ交ゝ月螺ゝ　支浪

三月尽

徒歩を西行の名残ゝ　支考

桑田

若ゝやゝ雨ゝ川ゝ交ゝ薄氷　少年武仙

蓮乃八年乃うきよの三所代
宝や雑費とその里ふき
蓮茎のうつひさ一輩の貝
毋方の波乃ふりしや米も船
時よりくる衣雲若き顔衣さらいか
ゆきまきハ人の文ふ雲洗て付れハ
元日や秋うつき衣のうつ表
くもりぬまるや法れ外うしの梅
明るる秋ハ ひのうふかれよあら表
樽の世ひの秋ハまうやまうつ
年歳の方古ふひらひて変ハ仕
常永樽月人千る 羽ふ文うの

百歳　千川
尚白　芭蕉
圃落　其角
山鋒　嵐雪
去来
士芳

ハ川 ふるさとよりハ仕てるる三月 凡脳
冬年移とまふけて
元日やまうこと待るりの毒の花　猿雖
る竹玉ハまんの樹原や義ふき　葛琴
背くうあふ和を見ぬやとの三　壮童
歯黒の系ふ見下の包尾の朝のう　耕雪
鮫の公ハの宵き乳をかく初月代　左柳
ハ川まや年ハ若桜の白貝色尾　前川
枇杷乃系井 横雑ふり初ふき　紺嶺
世の業や 鮫ハいれふ若夷　山鋒
濡いうや大ふ人けの初ふ彩　任行
元日や 系をうかき猫の文畜　仆戸

且葉　牧笛
沾圃　李東
圃角　須之
北枝　和平
譽風　何處
渙川　牧童
貞喜　不的
春幾　和之
蕉下　女
楚常　知月
挑葉　其角
雨邑

日ぐれのや加惹猛浦小鯛　牧笛
美しくうつり変るや七夕　李東
阿姫袋うちぬぐ七夕小　須之
まちの秋よ独も神もはつ小　和平
七くさふあいてさうや誠実　何處
角人わりや若生小糸のまつ小　牧童
美よりこそ七夕おのぶ花く叶ぶ小　不的
くさの芽のうくは千さく蓮小　和之
まつ一き人のかうけん稲のうな　女
夕ぶあみてうくあい稲のまろ　知月
明やこくふ　桃花の　彩の変　其角
ふつくうまあまさ花やまる桃の志　雨邑

破籠　言落
牧童　漁川
雨邑　宇自
一笑　孤舟
字路　流志

夏之部

郭公

曉の雲をさそふやほとゝぎす　其角
ほとゝぎす時や湖水のさゝ隠　大舟
ほとゝぎす宮や行てまつ小なくき　名言
習慣　停れ秋句　彩岳　支考
ほとゝぎす乃名ゝ世ゝ乃人時雨　如雪
燕の巣の一むしやかくれすむ　芦本
ほとゝぎす野田になけうの枕
分入石山の蟬ゝ鳴れの峰ゝ通りけゝや　沾圃
郭公うさいの雲や　中やゝ
木附華花

[illegible]

園中三句

公中乃 古里人の心 榜の花　什筋

年切のきくもも 柿乃若葉哉　千川

姫百合や 上りつさる 蟻の来　素拙

[illegible] 百合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蕪村句集 秋之部

早苗

京入や長刀の田植の俤　風麓

早乙女に結んでやらん黒の帯　蕪村　郊七

ふるさとの柳おくれて芽ぶきけり　閑居

田植すみて高き新の泥仏哉　魚日

一田植すみて水の音　支考　北枝

田植すみて遠く松の音　支考

蛍

蚊遣火の烟まぎれに見えつかず　許六

二日月より草刈の人帰るころ　曲水

納涼

涼しさや行燈ともす藪つづき　半残

雲霧たちやすき廣瀬の涼　惟然

涼川の廣瀬に宿して

涼しさの風にまぎれぬ水音　史邦

涼しさの風にまぎれぬ水音　蕪村

ふるさとや雲門あけて入る涼み　蕪村

涼しさや牛乃尾橋を川の中　牡年

涼しさ　長三句

藤棚にて涼しき濃茶の跡　万平

涼しさや桜ちりつもる苔の上　洒堂

牛乳を祝ひもてゆく涼しさ　支考

大文字の笠を茶会の涼しさ　京芝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]や青くもるゝ秋の空　不玉

きみこれや蓬がふの森の秋　芭蕉

八月雨や蹴とられぬ後つゝ　沾圃

夕立やもくもくしく合けり　拙候

白雨や蓮の葉さゝぐ池の水　苔蘚

夕立やもちぶしらける竹の皮　暁烏

ゆふ立ふれ金掌かる家やき一両　圃水

蟬

白雨や沖戻りして蟬の聲　正秀

きりゝすすてまりの蟬の聲　拙坡

森の蟬深き松やゆつき事　乙州

蟬降やぬの織る雲の長ゝ　暁烏

[illegible]の月や[illegible]をを

[illegible]の月や[illegible]をを　素柃

雜夏

[illegible]の動き　[illegible]

[illegible]ふ[illegible]　松尺

[illegible]　荆口

[illegible]の[illegible]　如真

川狩

[illegible]　柳絃

[illegible]　文鳥

[illegible]　蔦雪

[illegible]　水鷗

[illegible]　馬見

梅せくさや流るるふくく日乃雨　重翠
はるかやは遺産かる雨乃なと　耶考
蹄牛はのく〜員のそそきく八　多酔
晋の淵明をそ心

雲形くそ多くそ霧の そ心や草　文成
物こつる 時をつる 多くそ霧八　惟然
八月廣のくるこそみて乃雲きく八
ふせくそ多くそ多くそ多くそ多見縁
八月廣に本うて世そ交る
時をそ乃わるく 中ばく 減める百　文考

秋之部

名月　　文成

名月や禁乃ゝ壁乃 田乃くもり
名月の ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝて　柿園

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃

[illegible]

名月の海より冷る田葉かな　洒堂

明月や西にかたぶく鶴の月　如行

りのくの沙根よりの月入かな　露沽

ふるさとあらん人いさとはせん人けふの月　智月

名月や世の酒を人のわ　閑居

[illegible]

涼食　不玉

明月や戸次捨る酒もなし　紀力

中切の梨もとれぬ月の夜　左柳

名月や草の[illegible]　圃水

明月や去年見た人今なし　山蜂

[illegible]　凡兆

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

老の身い今宵の月も[illegible]　[illegible]

明月[illegible]　[illegible]

山寺の宿[illegible]の[illegible]の[illegible]

二見まて　支考
其ゝ荷と　空牙
柿の名や　如真
ひるのもち　宗比
名月や　木枝
塙よ　剣合
明るや　丹枫
明月や　野萩
飛入乃　正秀
淀川の　丈草
飛月の　景桃
待宵乃　月ゝ　庵ゝ　定乃　街

家ゝ三　老女ら　ゝ　父ゝ
秘し　ゝ　ゝ　ゝ
焼捨を　関ふの　ゝ　ゝ　月
垂露　ゝ　月　ゝ　ゝ　ゝ
芋ゝ　ゝ　月　ゝ　ゝ　ゝ
月ゝ　ゝ　海　ゝ　ゝ　ゝ
淀川の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
川よ　ゝ　川　ゝ　月　乃　友
十ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　関　初
ゆき　ゝ　ゝ　ゝ　関　ゝ
七夕　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
更行　ゝ　月　乃　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

沾圃　芭蕉
馬莧　仝
里東　猿雖
牧童
唯然

[illegible]

源義　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

田上尾　可南
園枝　北枝
風雲　正秀
其角　支考
　　杜若
　　撥丸

上八十九

蟬脱の殻をひろひまろ　石の上
すまの寒さ知るや人　蟬の殻　等哉
ぬけうらふ月の　月の秋　永峯
月うねふゆ　海の色　文草
散時や　白川原　百蒐
葉の色を　岩時雨　氷固
老の名乃　ろくも　支考
　秋風　芭蕉

秋うゆや　二ぶさ　の神　世間
岩ちよの　松も　いきろ　風
行のうしろ　かふ　やう　わ　文の風
末みきや　細きゆ　ゆ　の　式之
　　支考
　　風國

[illegible]

[illegible]

稲妻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水實[illegible]

[illegible]

炭焼の[illegible]

[illegible]

園燕　九貢　猿雖

一東　宗比　士芳　芭蕉

爲有　玄虎　泥堂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

車庸　芭蕉
買山　乃孔
如雪　半從
　　支考
　　仝
　　惟政
　　木節

[illegible]

沾圃　蕉雨
　　湖月
　　支考
　　兀峯
　　丈草
　　琴路
　　乙州

[illegible]

行秋や手負ひとりけらく霜のつ　芭蕉

雜秋

又六十海老はまだまだ殺一ツ　之道
栗くふの山家にあるは世を忘れ　圃友
あらく磯の鮑まぶしつく霜寒し　畦止
殘る蚊や宮ぬけ出る秋の角　口友
身ふるひして夜の明るまで　荻子
ぬるとて行る　猫もろく家の妻恋　万平
柿の葉の焼くべき盛りかな　来門　宗波
本ばかりさらる宅の戦骨ばかりの蛍鼓
をすまして殺さるる牛を一思て来る蛍
ぬるくみけらくまくれ牛ばかりのあられ

なるとかくのいろいろ殺すしんや　牧翁
牧翁雜を枕にして行る夏ろく
きりぎりすさらるる日はいかまおもきさ
ぬるいしのかりうい
猫は月や顔代とまろる庭の柳　大雲谷

冬ごもり部

時雨　時書

古乃はの頃の枝角やとの分女　耽波
ちくまぬはは又夢見の只れるれ　小枝
けふさうり人も寒よれ　初分女　芦蕉
一ちくれまさうの目彩るれ　嘉信

初くれ小藤乃　芋の葉の城　馬莧
平柳ふみ反田人の　時雨る　秋雨
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　周防
椎葉も　出よ　芳野　[illegible]　空牙
宍鮫の　知るより　[illegible]　[illegible]　岩有
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　鶏口
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　秋萩
柿色む　日和もなり　やむし　[illegible]　[illegible]川
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　里圃

[illegible]　沾圃

仲秋　[illegible]　[illegible]　[illegible]　時雨か

[illegible]　北鯉
[illegible]　支考

[illegible]

菓園に遊

[illegible]の宴城和　[illegible]月の[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]

菓は[illegible]　[illegible]の切る優の[illegible]

芭蕉

[illegible]

其角
桃隣
沾圃
芳言
玉苑

[illegible]

草 附木

玄堂
曲翠
氷固
唯然
[illegible]
車庸

冬籠ひとりふるやそのの草　士芳
山茶花も落てやとりの数つくす　露笠
枯葉　俳子結用
なりひさの広の葉ちる後や星の数　浪徳
星さえて行の剣然しむ蔭葉　素伯
冬川や水うち葉八重き岩の弓　惟然
禁ようはさくいときよの葉　根風
李柳坊宗氏の庵をとろねて
すのこよりうせさて見る高葉式　毛一
枯ふてて霜ふれたちにやせ葉　迷
牛乳紙是八枯柳のさりの代　杉風
雨枯の六年朱てひさる夜月　桃邨
乃梅

草枯て多くの野の枯るの鳴ふ冷　利牛
野の枯るの鳴ふ冷　支考
冬ふしや冬ふ冷ふ見えて教もを　智月
風や背中のくく　牛乃舌　凡行
ちりしや刈田乃鳴の　綾乳あ　惟然
ちりしや菓子きちりて牛の頭　壷生

寒蘭

寒ひとと蘭の花　芭蕉
寒ひとと蘭の蕾も鳴ふるうあけり　利谷
鳥　俳仙
乃ゆの海を見とる
垂蘭うあ　浦侍　白空

進んでうせにおろふ千鳥哉　芭蕉

小夜ふけて愛宕待の声ふる形　文章

入海や旅乃冬ふ　嵯峨　関杉

鶴ふ　はまみてわく〳〵　戸の里　芭蕉

九門明を犬走やうはみみれ　仁木

お泊千おろひへき牛海嵐ふ　文利

うゝくと海月と交る牛嵐ふ　名

見て入遊やゑ特ひゝめゝうは水　車庸

一塔ふ秋白魚やそやろ　嵯　鉄水

かくしふうや脇ふ冬ゝへて　家義　杉風

牡丹公思ふ脇乃大きゝ　拙候

粽の川ふのゝひるゝ　家義

八月　附歌

今日のゝや門ゝうゝ　里圃

あゝ猫ゝ行ゝけ　文章

行ゝも寝ゝ　小春

ゝ仙や門を出ゝ　支考

埋火

江ゝや寝ゝ　芭蕉

庵ゝ　桃先

自ゝや月を近ゝ　桐木

雪

初雪や門よ　其角

[illegible]みや月雪うち花の味
雪にのこる公乃うくる宿さ小
鶴鶴家人乃ぶきるくされ書　公
雪頂や　[illegible]ぬ人う小雪のさて　夕菊
ふくふくるもも草鞋を雪ぶけの雪　結甫
片[illegible]や雪ふかる　すさ俵　芳東
思ふ涙う雪見や日愛の雪後　支考
髪剃小[illegible]　[illegible]　圃吟
[illegible]賀大和うきふくる山[illegible]　文章
　　神樂　　偏和
　　祝祢　[illegible]　　祀力
　　鉢　たきき

史邦

食[illegible]やうかふ[illegible]ひるの[illegible]
[illegible]ふ[illegible]子鯨　蒙を　[illegible]　　[illegible]茂
[illegible]入の門も[illegible]けり　[illegible]　　[illegible]六
[illegible]を送りうくきろ　　絳歩　　結圃
　　煙楳　[illegible]　　[illegible]支
[illegible]や嵐追込芳[illegible]　　[illegible]香
[illegible]くきや[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　　[illegible]送
[illegible]ふ[illegible]　　[illegible]　　[illegible]
[illegible]ふ[illegible]　　[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]　　[illegible]

[illegible]

織蓑 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

一夜ごとの時雨に旅ねし　倫敦の夢　利合

雜々

小屋風の茶屋　焼くるや雲代　紙帳
椎竹よ　何の風ぞ　ろうけ鶏　土芳
井の水のあふるる音さへ　李下
宮寺や山伏　村の長閑さ　仙杖
霜ふるなかの月夫　去来　圃仙
火燒ける窟　河原の蛍　雪芝
山路や猿の屁掃く　みぐ日向　コ谷
畑扱ふ人参の根の寒さ哉　沾圃
菊刈やみぐ世新の五郎　杉風
釋教之部　消遥吉　長傷

涅槃

涅槃像　いつくき表裏も見ぬ表　沾圃
林もし命やや散り今ぞ梅の雪　芭蕉
山寺や猫宗守り居る涅槃像　不撒
貪瞋のまことを去るや涅槃像　山蜂

灌佛

灌仏やつくるる井戸の岩ね　曲変
鼎花や佛ぶりもそれて　二三日　不玉
灌仏や　釈迦と提婆と後世　之乃

竈祭

給物もこころみあるくほし　鬼祭
竈乃々のうふくやうさ魂まろ　岚雪
　　去来

山伏や　坊うをやとゝ魂まつり　沾圃

甲戌の元大はるよりはうこせのゝ

めをよりはうはるれりまゝ四月ゝ

帰りて盆をいとまひとして

寂ゝ　ゝの校の　ちゝ後の墓参り　大魯

海が年　二ゝ

竹ゝ　さやゝ麻木の箸　ちゝ　ゝ　振然

その後をちりぬるの子ハ秋の風　支考

かまくらの　ゝ　ゝ

蓋の中ハ　稲妻の千るゝの河の　木曾

ゝゝ　稲妻　ゝ　桶の水　支梁

洛新講

柳も　柿もちりまくれふゝ　沾圃

勝　八　汗六

勝ゝ　ゝ　ゝ　

食堂に茶碗洗ひ　久志ちくれ　文考

旅ごころ　一

送別

元禄十年の夏上京の別を吉野にて

変わらぬ心の庭の草の別れ　岩の谷　雖然

別るるや　柿賣るあなたの時　臼の上

洗ひ物　遠くに見ゆる時雨の雲　芭蕉

留別

落ち時雨　遠くに見ゆる時雨の雲　芭蕉

嵐ふく　出立の手向まつ一花　丈草

鮎のこの世　古く奥に別れ　芭蕉

田植歌のこゝろを詠ずる

宮ばの　山近ふ田のうねの雲の影　木節

年とりて　手ふのうれの雲の影　越人

稲つまや　うき草森に　森に　秋径

月入れば　ほたるの宿　秋径

岩角の　ふるの山　雨もものくわるふるを　公羽

花のかげ　岩枕なる　ほとゝぎす　許六

十間　ふつゝかなる　枕の風　公羽

大谷の　霧ふるゝ　わらぬ　蛙　公羽

夕顔の　蛙　公羽

くるゝ　さゝ　ふるつ　世の　無の　蛙　号爽

ほとゝぎす　十五夜　ふる　猿雖

明月のかゝるまもなくすみ渡る　我峯

[illegible]　史邦

[illegible]　呂丸

文臺の[illegible]　支考

我庵の[illegible]　洒國

常陸の國の[illegible]

やしう求めんと[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　支考

[illegible]　巫

[illegible]

武蔵なる[illegible]の国の[illegible]

[illegible]

宿かりて名をなのるまる　[illegible]

千鳥

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

同の稿はるもとめきのふ
鄙俗の名ハいらきまふ手者ふ
雅趣よ所中を手や孤ちとり
ゆくるの情もき食や孤ちとり
引汲まふ者代変の行ふ半代
手者とも孤ちる雅ちもの中の妹
鶯ちるる中ちとき八手者ふ
淋しきの裏ふ孤ちくす手者ふ
ふ孤の手者ふ行ちふ勝ちふ
方寸の新やむの中孤ちとり
いかふ手ちる者ハ中ちやまの代手者

長文
徳七
麦秀
金風
有馬和臧
十六
昨非
甘泉
之白
月尋
柳水
金聯